

全国都市緑化仙台フェア基本計画 第2回検討会 議事概要

日 時：令和3年7月12日（月）14：00～16：00

会 場：仙台市中小企業活性化センター セミナールーム2・リモート併用

出席委員：涌井座長、遠藤副座長、内海委員、鹿又委員、古積委員、今野（彩）委員、
佐藤（修）委員、佐藤（重）委員、佐藤（美）委員、深松委員、舛谷委員、
村上委員、渡部委員（計13名）

オブザーバー：国土交通省東北地方整備局建政部 峰寄都市調整官

欠席委員：工藤委員、今野（薫）委員、庄子委員、高橋委員（計4名）

事務局：建設局理事（全国都市緑化フェア推進担当）、百年の杜推進部長、
同部全国都市緑化フェア推進室長、同部百年の杜推進課長、
同部公園課長、同部公園整備担当課長、同部河川課長（計7名）

1：開会

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

－開会－

－感染対策としてマイクの消毒と換気を実施する旨説明－

○涌井座長

－事務局へ定足数確認依頼－

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

－定足数を満たしている旨報告－

○涌井座長

－会議を公開とすることの確認－

（委員異議なし）

・議事は公開で進めさせていただく。

・議事概要の署名については、鹿又委員にお願いしたい。

（鹿又委員了承）

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

－資料1「全国都市緑化仙台フェア基本計画（最終案）」説明－

－資料3「前回（第1回検討会）からの変更箇所一覧」説明－

○涌井座長

- ・資料1「全国都市緑化仙台フェア基本計画（最終案）」について、「全国都市緑化祭」に関する記載はどのようになっているか？

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- ・緑化祭については、P26に行催事計画とは別項目で記載していた。具体的な日程や開催内容は今後、国と調整しながらしっかり検討して参りたい。

○涌井座長

- ・緑化祭については行催事計画の項目内に記載しておく必要があると思われる。
- ・緑化祭はメイン会場で行うのか。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- ・過去に開催されたほとんどの緑化祭において記念植樹をメイン会場で実施しており、今回もそのような形になる可能性は高いと思われる。

○深松委員

- ・緑化フェアは夜間開催しないのか。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- ・具体的な開催時間については今後、先催の緑化フェアの事例や運営上の課題なども踏まえながら検討したい。

○深松委員

- ・フェア期間中は、暑くもなく涼しい中で散策できる非常に良い時期なので、金・土曜日だけでも夜間開催を検討いただきたい。
- ・荒浜地区に民間の観光施設がオープンした。この時期は、いちご狩りなどいろいろなフルーツ狩りができるので、フェアにおいても連携してはどうか。
- ・平成元年に仙台市で開催された全国都市緑化フェア「グリーンフェアせんだい」の会場となった七北田公園は、現状、どのくらい市民に利用されているのか。今回のフェア会場については、10年後、20年後の使い方も含め、レガシーを残すための観点で計画してほしい。

○事務局（百年の杜推進部長）

- ・七北田公園については、特に土日は芝生広場が多くの方で賑わっており、本来の公園の使い方という意味においては仙台市内で最も利用されている公園の1つであると認識している。

- ・七北田公園で30年前にフェアが開催されたことを覚えている方はいると思うが、フェアのレガシーがどのように受け継がれているかという面においては、たしかに希薄になっているという点はある。このことについて、今回の緑化フェアを次世代にどう繋いでくか、さらに検討を進めてまいりたい。

○涌井座長

- ・多客日の安全管理、事業運営を考えるうえでも、開催時間は非常に重要である。開催時間が延びれば、来場者が集中する日や時間がずれてくる。
- ・目標入場者数については、事務局でもそれなりに試算をしており、概ね妥当な設定だと思われるが、交通計画や運営体制、ボランティアの人員計画などの細かな要素がないと開催時間の延長についてはなかなか踏み切れないということなのだと思う。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- ・開催時間を延長することにより、時間あたりの来場者数が減るということも考えられるので、開催時間については、多客日の運営方法とあわせながら検討していきたい。

○涌井座長

- ・開催時間については、飲食などでフェアに参加する事業者の方々の事業計画にも非常に影響するので、今後の検討における大事な視点として認識いただきたい。

○佐藤（美）委員

- ・今回のフェアには県外からも多くの方が来場されると思われるので、津波からの避難も含め、災害が発生した場合の安全管理計画も立てていただきたい。
- ・会場サインについて、多言語化するだけでなく障害のある方にもきちんと伝わるように工夫していただきたい。
- ・ボランティアについて、基本計画（案）P28に記載のある広報宣伝計画に「若者の視点を取り入れた広報計画や情報発信の展開」とあるが、市民協働計画には、若者がボランティアに参加したいと思えるようなメニューがないように感じる。若者が積極的にボランティアへ参加できるよう、企画の段階から参画してもらうような枠組みを検討すべきではないか。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- ・会場サインについて、様々な方に対応できるよう、物理面だけでなく、筆談などのソフト面も含めて出来る限り配慮していきたい。
- ・若者の参画については、大事な観点であると認識しており、今後、実施計画の策定を進めていく中でブラッシュアップしていきたい。

○涌井座長

- ・会場サインについては、フェア会場以外でも使用できるよう汎用的なものにしていただきたい。また、いろいろなスタイルのサインを乱立させると分かりづらくなるため、注意していただきたい。緑化フェアを良い機会とし、仙台のアーバンデザインをリードできるようなサインを作っていくのは、後々の仙台のインバウンドや観光にとっても有益であるため、力を入れて取り組んでいただきたい。

○今野（彩）委員

- ・基本計画（案）P6 の基本理念に「杜の都のみどりと親しむライフスタイルの発見」を掲げているが、現状の行催事計画では、ライフスタイルを提案していく要素が弱いと思う。例えば、平日にふらりとビジネスマンが会場に立ち寄れるような仕掛けがあると面白いと思う。
- ・若者が広報に関わる点については、自分たちがフェアで何かをやるという前提があると、広報として力が入ると思う。例えば、大学の研究室と連携して、大学生による働き方の提案が入ってくると、若者の首都圏流出の問題にもアプローチするような、仙台、東北で働くというのはこんなに素敵だ、という発信に繋がっていくのではないかと。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- ・フェア会場に整備する芝生広場に、就職活動中の学生と採用する側の企業が集まり、何かしらのイベントが行われていくといったことが、仙台市が基本計画において標榜している“The Greenest City”の在り方でもあると思っている。
- ・新しい働き方の提案や、若手社会人の活動などを促進できる場となればよいと考えている。例えば、新しい働き方を提案されているような企業と連携するなど、フェアの中で積極的に取り組んでまいりたい。

○涌井座長

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により公園に対するニーズが変化し、仕事の間でも家庭でもないサードプレイスとして利用されるようになった。
- ・公園における PFI 事業において、最も規模が大きい名古屋市の久屋大通公園では、テントを借りてその中で仕事をする人も見受けられる。最近、東京では公園でテントを張る人が増えていることが問題となっている。
- ・各企業においても、サードプレイスに関連した商品の供給に力を入れている。
- ・仙台にはライフスタイルメーカーとして全国を席卷している会社もあるので、そうしたところと提携なども検討してはどうか。

○古積委員

- ・メイン会場のウェルカムゾーンについて。基本計画（案）P15 に記載がある「青葉山公

園追廻地区」の「ウェルカムゾーン」の展開イメージの中にフォトジェニックスポットに関する記載があるが、イメージパースに示されている壁面緑化をメインの演出として考えているのか教えていただきたい。

- ・同じく「ウェルカムゾーン」の展開イメージの中に「震災からの復興についてのパネル展示」とあるが、これは（仮称）公園センターの中で行うのか、あるいは屋外で展示するものなのか教えていただきたい。
- ・「もりの庭園ゾーン」の展開イメージについて、「造園の伝統の技や知恵を継承、発信する日本庭園を作成する」とあるが、その日本庭園の規模等の概要を教えていただきたい。
- ・基本計画（案）P24の協働推進計画に関する記載の中に「子どもたち、市民の参画でつくりあげる大花壇」、「市民ボランティアの参画による花壇管理」とある。図面によれば青葉山公園追廻地区に直径数十mくらいの大花壇を整備するようだが、ボランティアの参画は花壇全体のことを指しているのか、それとも一部の区画なのか。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- ・決定した事項ではないが、「ウェルカムゾーン」では、壁面緑化も取り入れたいとの思いでこのようなパースとした。
- ・震災からの復興に関するパネル展示については、基本的には（仮称）公園センター内での展示を想定しているが、やり方によっては屋外での展示も可能だが、見映えも含めた検討が必要である。
- ・「大花壇ゾーン」については、市民の方にお問い合わせするのは一部の施工と考えている。

○事務局（公園整備担当課長）

- ・「もりの庭園ゾーン」については、（仮称）公園センターに隣接する南側に位置しており、青葉山の自然環境を模した約 6,000 m²の庭園を整備する予定である。その一角に、現在、仙台市博物館の敷地内にある「残月亭」という茶室を移築し、これに付随する茶庭として約 200 m²の日本庭園を作庭する計画である。

○遠藤副座長

- ・日本庭園の作庭過程を公開するとのことだが、フェア開催時における「もりの庭園ゾーン」の整備状況はどのようになっているのか。

○事務局（公園整備担当課長）

- ・「もりの庭園ゾーン」については、来年度の工事で植え付けをする予定で進めており、材料は既に確保している。フェア開催時には、「もりの庭園ゾーン」については概ね完成している予定である。
- ・日本庭園の区画については、全ての作庭過程を公開することは難しいが、仕上げの工程

を公開できないか、今後、検討していきたいと考えている。

○遠藤副座長

- ・青葉山公園追廻地区については「ウェルカムゾーン」にメインゲートがあるが、別のエリアにある大型バス駐車場からも入場が出来ると思う。来場者に会場へ出入りできるのはメインゲートだけだと誤解を与えないよう、動線を分かりやすく設定してほしい。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- ・フェア会場では、企業の皆様からお預かりする出展物などを管理するため、入退場口は限定する予定である。具体的には、（仮称）公園センター北側近くと、大型バス駐車場の2箇所を入退場口として考えている。

○涌井座長

- ・日本庭園の作庭過程を一般公開することについて懸念がある。茶庭の作庭工程は非常にデリケートであり、きめ細やかな作業が求められる。全国の庭園技術者の総代になられた内海委員の意見をお聞きしたい。

○内海委員

- ・仙台下における茶室として、宮城県内の造園業者の総力をあげて作っていくべきものだと考えている。ただし、作庭過程の公開は難しい。やり方によっては、部分的に見せられるかもしれない。
- ・「人が輝くグリーンライフゾーン」にモデル庭園を出展し、フェア期間中に庭園を造っていくようなスペースを設けてもよいと思う。それならば造園業者として対応可能である。

○涌井座長

- ・質の高い庭園を整備することと、作庭過程を公開することの両方を共存させる戦略に興味があると思うので、非常に良いヒントをいただいたと思う。

○内海委員

- ・フェア会場の警備について。開催時間外は、警備員による夜間警備を行うのか。その点について確認させていただきたい。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- ・具体的な警備計画は今後、定めることになるが、開催時間外においても警備員を常駐させる予定である。

○鹿又委員

- ・報道機関としては、開催機運の醸成が重要だと考えている。現計画においては、仙台市全体を巻き込んでいくという観点が弱いと思う。
- ・協働推進計画については、集客のみならず、地域の花壇づくりを積極的に行い、市民をフェアに巻き込んでいくような取組みが必要と思う。
- ・小中学校への働きかけが最も効果的だと思われる。小中学校での花壇づくりを来年から積極的に取り組まれてはいかがか。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- ・小中学校と連携した取組みは、地域の巻き込みや担い手の育成にも繋がると考えている。学校でプランターや花壇を作製していただき、その一部をフェア会場に出展いただくような取組みができるよう、検討してまいりたい。

○事務局（百年の杜推進部長）

- ・小中学校、若い方たちをいかに巻き込むかを考え検討してまいりたい。

○涌井座長

- ・来年開催される北海道恵庭フェアのセールスポイントはオープンガーデンである。まずは自宅の庭をきれいに、次に街路を、というような望ましい流れができていくと聞く。仙台市においても、特に新興住宅街などで潜在的にオープンガーデンに取り組んでいる方々も多い。
- ・河北新報社として、オープンガーデン活動の推進にご協力いただけるとよいのだが。行政がこのような活動を取りまとめるのは大変だと思う。是非、ご検討いただきたい。

○村上委員

- ・フェアは令和5年に開催されるということで、ポストコロナにおける大きなイベントになると思われ、旅行業界としてはしっかり協力していきたい。
- ・フェアが開催される時期は、修学旅行をはじめとして、東北各県の学校で校外学習、日帰り学習旅行等が実施され、仙台に来訪する児童生徒も多いが、昨今の自然災害に対する安全性の確保をお願いしたい。
- ・旅行業界としては、長期的な効果の視点を持ち、フェアのレガシーという形で継続出来ればと思う。例えば、何らかの形でイベントを継承したり、市民活動を増やしたり、ひいては地域の観光振興に繋がるようなフェアであることが望ましいと思う。
- ・宿泊施設等に対し、緑化の関係でご協力いただけないか、働きかけなどもできると思う。観光施設を含め、オール観光業界として取り組めればよいと考えている。
- ・修学旅行は平日に催行される。また、フェアの開催時期は遠足が非常に多くなる。特に、

山形、福島、岩手の小中学校の来訪が多い。日程としては、4月28日（金）、5月は1日（月）2日（火）への集中が予想される。

- ・見学するだけでなく、体験できるプログラムを用意いただきたいが、人が集中して何もできなかったということが起こらないよう、受け入れの規模感について検討いただきたい。
- ・修学旅行や遠足の集中が見込まれる日程において、大型バスの駐車場を予約制にするなど、運用についても検討いただきたい。
- ・フェア会場への来訪を教育旅行の行程に組み込む上で一番大事なのは食事場所だと考えている。大人数なので食事場所の有無により来訪する時間が左右される。また、雨天時の食事場所についても学校と打ち合わせする内容であるため、フェア会場における雨天時の対応について検討いただきたい。
- ・ツアーガイドを養成し、クラスごとに案内をしていただけると、より印象に残る体験学習、修学旅行、遠足になると思う。

○涌井座長

- ・これから運営計画を立てる場合には、最大集中時間、集中日が重要な要素となる。例えば、見学ルートを複数設定して動線を分散させるなど、来場者が快適に楽しめるような工夫が必要となる。
- ・フェアの開催年は、コロナ後の旅行需要の高まりが見込まれ、そうした意味では仙台フェアは非常に恵まれていると言える。一方、来場者が集中した際の受け入れ体制に関するプランニングを運営計画の中で立てないと上手くいかないだろう。
- ・東北には「3.11 伝承ロード」や「みちのく潮風トレイル」もある。こうした広域的なコンテンツをフェアに組み合わせながら考えていくという事が重要であると思う。それは旅行業界にも大変大きな影響を及ぼすことになるのではないか。

○村上委員

- ・旅行業界としては、一か所だけではなく、各地との連携により面として対応したい。仙台周辺含め、一泊二日、または二泊三日と、ゆっくりと宮城県でお過ごしいただくプランについても十分に考えられることから、各団体と連携をとりながら、旅行業界として情報発信をしていきたい。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- ・災害時対応は、フェアの運営において最重要事項と考えている。東部エリアにおける津波の避難対応はもちろんのこと、メイン会場も河川流域に立地していることから、逐次、天候を注視しながらの対応が必要となると思う。また、地震発生時においても、来場者の誘導等、しっかり避難計画を策定した上で避難時のシミュレーションを行い、対応できるようにしたい。

- ・修学旅行の対応についてご助言いただき感謝申し上げます。我々としても、日ごとの来場者数の予測をもとに、しっかりと受け入れの準備に取り組んでまいります。
- ・教育旅行の受け入れについて、基本計画（案）において想定しているプログラムの受け入れ規模は多くても30人程度である。教育旅行の場合、少なくとも1学年、100名程度の対応が必要になると思われる。ご提案いただいたツアーガイドは、クラス単位でのご案内が可能になると思う。教育旅行のみならず、一般の団体旅行客の受け入れ体制についても利に適っていると思うので、今後、検討していきたい。
- ・雨天時の食事場所については、ハード整備にも関連してくることもあり、今後の検討課題とさせていただきたい。

○渡部委員

- ・自分が経験している屋外で開催されるイベントでは、食事場所やトイレが非常に混雑していた。今後、調整いただきたい。
- ・基本計画（案）P28の広報宣伝計画に記載のある「ガイドブック作成」について、大いに期待している。ガイドブックはフェア期間中だけでなく、フェア終了後にも活用できるものである。有償で販売することも含めて検討いただきたい。
- ・来場者アンケート調査の実施についても評価できる。ICTの活用などにより、多くの来場者の意見を速やかに収集できるようにしていただきたい。また、イベントに関するだけでなく、将来的なまちづくりなどの参考にもできるよう設問を工夫していただきたい。

○佐藤（重）委員

- ・物販・飲食ブースについて、フェア期間中を通して同一の事業者が出店するのか？ それとも一定の期間で切り替えるのか。また、出店料についても、教えていただきたい。
- ・アンケート調査の実施は重要である。フェア期間中において、アンケート結果を踏まえた運営等の即時改善は実現可能なのか。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- ・物販・飲食の出店については、通期出店とスポット出店の区分を組み合わせた形としたと考えている。
- ・アンケート調査に限らず、フェアを運営していく中で様々なご意見をいただくことになると思われるため、アンケート調査の結果を待たずとも、必要に応じて随時、改善を図っていくことになるものと考えている。

○佐藤（修）委員

- ・東部エリア会場へのアクセスの利便性について、どのように考えているのか？ 荒井駅から荒浜小学校まではバスの路線があるが、本数は多くない。

- ・震災からの復興期間を30年間とすると、現在は第2期にあたる。植樹より育樹のフェーズとなる。フェアを契機として、これまでの植樹や育樹の成果を全国に発信したい。沿岸部のみどりの再生は、多くの企業等の協力を得て、壮大な計画のもとに実現してきたものである。フェアにおいては、こうした取り組みを体験してもらえるようなプログラムの造成が必要であり、そのためには東部エリアにおける交通の利便性向上が求められる。
- ・これまで、市内の小学生に参加してもらい「どんぐりの森づくりプロジェクト」を推進してきたが、フェアにおいてもこのような取り組みをお願いしたい。小中学生には、会場を見学するだけでなく、花壇づくりや写生などにも参加してもらいたい。
- ・北海道の大雪山周辺の自治体を会場に「写真甲子園」というイベントが行われているが、このイベントへの参加をきっかけとして、現地へ移住する人が増えている。緑化フェアの開催を契機として、仙台への移住を希望する人たちが出てくればよい。

○涌井座長

- ・私は再三にわたり東部エリアに注力するよう意見を述べてきた。”Nature based Solutions” (NbS) という言葉、つまり、社会的共通課題を自然により解決するという概念の延長線上が、実は国交省のグリーンインフラ、第5次社会資本整備重点計画である。気候変動などに対して、今までのような工学的なインフラ型ではとても対応できない中、自然の力を一部借りて、どのようにして自然と共に生きていくのかという体制をつくらなければ、これからの激甚型の災害に対応できない。自然とどう共生するのかというのを、しっかり考えていくのだという意味も、都市緑化フェアの背景にはあると思う。仙台市の沿岸部には、居久根や貞山堀など、自然との共生により生まれた伝統的なコンテンツが残っている。こうしたものを子どもたちに見てもらうのも重要である。
- ・フェアの会場運営に仙台うみの杜水族館が参画するのは良いことである。自然災害からの復興に関連して、生き物への関心を喚起させることは重要である。

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- ・「ふるさとの杜再生プロジェクト」は、グリーンインフラ大賞を受賞した仙台が誇るべきプロジェクトだと認識している。こうしたプログラムを体験していただく場合には、市民と観光客とで分けて考える必要があると思っている。
- ・観光客を対象としたとき、手袋や長靴など、それなりの装備が必要であり、また、植樹体験だけでは物足りないと感じる方がいらっしゃる可能性もあることや、沿岸部までの移動手段の提供といった観点からツアー形式をとり、その中で体験プログラムと食、観光を組み合わせるのが望ましいと考えている。
- ・市民に対しては、すでに学校や児童館などによる植樹・育樹活動が活発に行われている中、フェアにおいてどのように参画いただくのが望ましいあり方なのか、しっかり検討していきたい。

○舛谷委員

- ・前回の仙台フェアの会場である七北田公園の良い点として、夜でも安心して利用できることが挙げられる。駐車場が夜遅くまで使用できることに加え、園路や河川堤防の管理通路に人目があるといったことが夜間でも安心して利用できる理由となっている。それに対して、青葉山公園追廻地区の現状は、夜間に近づけるような場所ではない。
- ・一方で広瀬川左岸の区画に園路がひらけていれば、いろいろな利用ができ、人目があることで、安心して使えるようになる。フェアを契機として、追廻地区が持つ近寄りやすいイメージを払拭していただけるとよい。

○峰寄都市調整官（オブザーバー）

- ・国土交通省では、居心地がよく歩きたくなるまちなかづくりを推進しており、「芝生を活用したまちなか空間の創出ガイドライン」を策定している。今回の会場にも芝生広場があり、まさにまちなかの空間としての象徴になり得る場所なのではないかと感じている。
- ・緑化フェアだけではなく、街の核として機能するようなイベントにも焦点を当て、一過性で終わることなく永続的な活動を検討していただけると、良い空間づくりができるのではないかと思う。
- ・まちなかに芝生を取り入れると周辺の店舗の売り上げが増加するという効果がある。メイン会場から仙台駅までの道のりに、非常に賑わいのある街なかがあり、周辺の商業事業者が、緑による波及効果を実感できるように、オープンな空間づくりなどに取組んでいただきたい。

○涌井座長

- ・「ウォークアブルなまち」という視点に立ち、これからしっかり議論していただきたい。

○古積委員

- ・「ウェルカムゾーン」の壁面緑化について。通常の壁面は平面的なものだが、最近は立体の壁面もあり、形にアンジュレーションをつけることが可能である。例えば、青葉山と広瀬川の景観をイメージしたものが出来る。
- ・グリーンスクエアゾーンにおける「花緑によるおもてなし修景」とは、具体的にどのようなことを想定しているのか。
- ・会場に隣接する空間の設え方が重要である。仙台国際センターからメイン会場への動線において、広瀬川が見えないほど樹木が生い茂っているので、整備した方がよいのではないか。

○遠藤副座長

- ・連携会場の中に七北田公園の名がないのは寂しく感じる。七北田公園は、平日でも飽和

状態となるほど市民利用が多い施設であり、前回フェアの一番の財産ではないかと思
っている。

- ・連携会場として位置付けられている仙台市野草園は、昭和 20 年代に市民の方々の連
携により造られた初めての植物園である。こうした緑を造った歴史をフェアで紹介す
るといのは、非常に大切なことだと思う。
- ・東部地区の居久根は、津波によりほとんど壊滅してしまうほど大きな被害を受けた。そ
うした歴史をフェアで上手に表現し、杜の都の原点に立ち返る機会としていただきた
い。

○涌井座長

- ・本日いただいた様々なご意見を踏まえた基本計画最終案を事務局が作成することにな
るが、この確認について、私にご一任いただけるかどうかお諮りしたい。
(委員異議なし)
- ・では、そのようにさせていただく。

2：その他

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

- ・基本計画について、本日いただいたご意見を踏まえてまとめ直し、8月に市議会に対し
て説明した上で公表する予定である。
- ・9月初旬に、仙台フェアの実施主体である実行委員会を設立し、実行委員会の第1回総
会にて基本計画を説明し、実施計画の策定等に向けた検討を進める予定である。

3：閉会

○事務局（建設局理事）

－ 検討会閉会の挨拶 －

○事務局（全国都市緑化フェア推進室長）

－ 検討会終了 －